

自転車国内販売動向調査月報ダイジェスト(平成24年11月)

当協会では、毎月全国100の標準自転車小売店を対象に、自転車の販売に関するアンケート調査を実施し、「自転車販売動向調査月報」としてとりまとめ発表しております。

平成24年11月の調査がまとまりましたのでその概況をお知らせします。なお詳しくは月報をご参照ください。

◎調査店1店当たりの販売台数

平成24年11月の1店当たりの新車販売台数は前月比73.5%の11.4台となり、前年同月比では96.6%となった。車種別で見ると前月比で横ばいが折りたたみ車で、下回ったのがシティ車71.4%、ホーム車77.5%、子供車55.6%、幼児車60.0%、マウンテンバイク75.0%、スポーツ車64.7%、電動アシスト車86.7%である。前年同月比では上回ったのがホーム車101.9%、折りたたみ車125.0%、電動アシスト車130.0%で、横ばいが幼児車、マウンテンバイクで、下回ったのがシティ車83.3%、子供車83.3%、スポーツ車73.3%である。

◎自店や他店の動向など調査店から寄せられたコメント

各店舗から寄せられるコメントは、「各メーカー営業社員は声をそろえて“非常に悪い”という。当店は平年並み、ありがたいことだ。ホーム車2~3万円台と電動アシスト車が好調」(福島)、「7月以降例年になく順調。このままあと1ヵ月がんばりたい」(千葉)、「売上げは前年とほぼ同じだが、ホーム車は比較的高額のもので売れた。よい商品を大切に手入れして乗って下さるお客様が来店されるとうれしい」(山口県)と、商況が良好なコメントもあるが、「東北の自転車店にはつらい冬がやってきた。これから来年の3月まで、じっと我慢の生活が続く」(宮城)、「近年にない落ち込み、修理もだんだん少なくなりどうしたものか」(島根)、「最悪、今までにないほど最悪、ワースト記録更新…」(岡山)など、芳しくないものがほとんどである。

また、来年度モデルの通学車の内装5段についてのコメントが重なり、「来年度の通学車の内装5段はどのくらい売れるだろうか」(長野)、「来年の通学車は内装5段を投入して、値段も上がってますます当店では売るのが厳しくなってくるような気がする。3段ではダメなのか?」(岐阜)、「内装5段モデルを来年の通学車定番にどの程度入れるか迷っている。売れるかどうかわからないのと、各メーカー欠品も予想されるので」(滋賀)など、どれも景気が低迷している中内装5段の売り上げ予想が難しく、仕入れに苦慮しているようだ。

調査店1店当たりの販売台数(総合)

[全国9地域 店舗:100]

(平成24年11月)

[単位:台 構成比:%]

車種別	本 月		前 月		前月比	前 年 同 月		前年同月比
	台 数	構成比	台 数	構成比		台 数	構成比	
シ テ ィ 車	2.0	15.4	2.8	16.0	71.4	2.4	17.6	83.3
ホ ー ム 車	5.5	42.3	7.1	40.6	77.5	5.4	39.7	101.9
折りたたみ車	0.5	3.8	0.5	2.9	100.0	0.4	2.9	125.0
子 供 車	0.5	3.8	0.9	5.1	55.6	0.6	4.4	83.3
幼 児 車	0.3	2.3	0.5	2.9	60.0	0.3	2.2	100.0
マウンテンバイク	0.3	2.3	0.4	2.3	75.0	0.3	2.2	100.0
ス ポ ー ツ 車	1.1	8.5	1.7	9.7	64.7	1.5	11.0	73.3
電動アシスト車	1.3	10.0	1.5	8.6	86.7	1.0	7.4	130.0
合 計	11.4	87.7	15.5	88.6	73.5	11.8	86.8	96.6
中 古 車	1.6	12.3	2.0	11.4	80.0	1.8	13.2	88.9
総 合 計	13.0	100.0	17.5	100.0	74.3	13.6	100.0	95.6
モーターバイク	0.4	3.1	0.5	2.9	80.0	0.4	2.9	100.0

注:モーターバイクにおける構成比欄の数字は本月販売台数総合計に対する比率である。